

2024年6月20日発行(隔月20日発行)通巻301号

BAN

30万人のための
情報発信マガジン

番

【新連載】
新・モノ図鑑

6

June

【インタビュー】
世界最高齢アイアンマンレース選手
稲田 弘

【特集】
デジタルフォレンジック
最前線

- ①警察における情報技術解析の最新動向
和歌山県警察本部長(前警察庁情報技術課長) 野本 靖之
- ②デジタルフォレンジックの現状とこれから
株式会社サイバーディフェンス研究所 大嶋 智
- ③デジタルフォレンジックツールのご紹介

苦情は宝

怖くない
他業態に見る苦情事柄

第52回

加害者児童へ慰謝料を請求する モンスターペアレント

モンスターペアレントの形も変わってきました。小学校の授業中に起きた生徒同士のトラブルに、被害児童の保護者が加害児童の保護者へ金銭を要求した例を紹介します。

メテオレジョン株式会社代表取締役 吉浦・クレイ 経営アドバイザー 関根 真一

June 2024 BAN 50

被害児童の親が
モンスターペアレントに

私は、2010年から2019年まで独立法人・日本学術振興会「学校保護者関係研究会」の委員として様々な学校の保護者問題に携わりました。その中でいわゆるモンスターペアレントのような保護者も経験したことがあります。

小学5年生の女子児童Sさんが校長のKさんをビックリさせたつもりで、後から「ワツ」と大声を掛けました。すると驚いたKさんは、鉄棒のポールの外に顔の頭部をぶつけてしまいました。その時は出血もなく、何ともありませんでした。Kさんは自宅までの出来事を親に伝えました。が、翌日に目の腫れと出血があり、Kさんは学校を休みました。

その住所を尋ねましたが学校側は「個人情報」を理由に教えたくれませんでした。2人はラインを交換して、早いほうがいいと思えば任せておけばいいと申しました。するとKさんの保護者が翌日そのことに対して「失礼だ」と学校を通じて抗議をしてきたのです。

Sさんの家族は学校に「問題解決に何となく対応するか」を求めました。保護者は「Kさんの保護者の方をモンスターペアレントと見なさないか」という相談がありました。Kさんの保護者は「保護者側から連絡をもらって拒否していい」という考えを持っていましたが、Sさんの家族は「保護者が怒口を代行すると学校に伝えました。学校から連絡をもらったKさん家族は当初代理を立てることに拒否を示しましたが、10日後にこちらも弁護士を立てると連絡が入りました。保険業者も弁護士を通じているので、当然の流れです。Kさん家族は「不登校の慰謝料を明示した診断書を医師に依頼したうえでが断られ、結果的な治療費と通院費、そして将来的な精神的慰謝料を合計して20万円を支払いを求めた。Sさんの親もこれに同意し、Sさんの父が勤める会社の総務部が処理を行い、保険を利用して支払われました。」

今回、苦情に「応ずる」ため、Sさん家族は「慰謝料を請求する」という考えを持っていましたが、保険業者の重要性などを痛感したそうです。学校が対応してくれなかったことは予想外だったことも、その後Kさんの家庭は生活保護を受けていることを知り、そこまでは、金銭を払うのは難しいとされています。生活保護は制度であり、悪いことではありませんが、その受給者が、全国で200万人以上いることもSさんは知りませんでした。

今回は保護者から保護者へのクレームで、30年前モンスターペアレントが話題になった頃の保護者から学校へとは違う新しい形のものでした。

コロナ禍が落ち着いた今、どの業界も苦情に変化が現れています。そこには、イチャモンめがけに問見えず、過去と同じ対応では解決できません。被害が膨らむことも予測されます。地域の専門的知識を持つ方には協力いただくことも有用です。